

優秀賞

大企業区分

ダイキン工業株式会社 滋賀製作所

※事業者の情報は 2016 年 11 月時点

所在地	滋賀県草津市岡本町 1000-2（本社：大阪府大阪市）
業種	製造業
社員数	（単体）1,202 名
ウェブサイト	http://www.daikin.co.jp/index.html

ひとりの100歩より100人の一歩 従業員の行動の積み重ねで大きな環境成果へ

目的

ダイキン工業滋賀製作所では、環境配慮型製品の開発と生産を行っています。ものづくりにおける環境配慮は必須であり、工場で働く従業員一人ひとりが「環境を常に意識しながら行動する事」「当事者意識を持ち自ら考えて行動する事」が大切であると考えています。また滋賀という自然環境に恵まれた地を守り育てる心も大切に、自然と人・人と人との繋がりに注力し、地球環境と地域社会に貢献すべく活動をすすめています。

概要

2009 年に、従業員の環境意識の向上と、地域貢献活動を目的とした「桜プロジェクト」を発足し、様々な環境活動やイベントを実施しています。「ひとりの100歩より100人の一歩」を合言葉に、全員参加・全部門参加にこだわり継続した活動を行っています。発足時から、全従業員を対象とした「環境意識アンケート」を実施しており、アンケート結果から底上げすべき項目に対する環境イベントを企画するなど、PDCA を回しブラッシュアップを行っています。その結果、確実に意識の向上が確認できています。

2011 年より、ダイキン生物多様性基本方針に則り、企業緑地を活用し、郷土種のゲンジボタルを呼び込む活動も開始しました。生物多様性保全活動に欠かせない間伐作業、植栽、植樹、外来種駆除活動なども、従業員の社内環境イベントとして実施し、多くの従業員とその家族のかかわりで交流の輪も広がっています。

特徴・アピールポイント

◆ 桜プロジェクトの取組み、組織体制

「桜プロジェクト」とは、全部門の代表者2名で構成される組織で、活動やイベントの企画、部門での推進役となり全員参加・意識向上の目的を果たすための重要な役割を担っている組織です。当初は管理職と一般職が代表者となり取組みを開始しました。

目的や活動もオーソライズされ、プロジェクト名も浸透してきた事により、現在では若手社員が率先して部門の牽引役として活躍し、事務局主体の活動から従業員主体の活動へと変わってきています。

また発足当初は、身近に出来る事から一歩を踏み出すべく、毎月強化する環境取組みを決め、様々な活動やイベントを企画し実行しました。またイベントが終わればニュースレターを発行し、参加出来なかった従業員への周知を行いました。

環境意識アンケートの結果から「省資源」に対する意識が低かった事を受け、使い捨てへの意識を変えるべく『マイ箸イベント』を実施し、50名が参加した。



◆ 生物多様性の取組みによる人と自然・人と人とのつながり

当製作所は、里山地域の中央に位置し、田上山系からマザーレイクである琵琶湖へと続く緑地や水辺の繋がりを強化することで、より質の高い地域生態系を構築する事が出来る、非常にポテンシャルの高い地である事が周辺地域の生物調査で明らかになりました。また企業緑地としては難しいとされる地元のゲンジボタル保全活動を行い、工場内でのホタル飛翔や定着の成果を得る事で、従業員の環境意識向上にも寄与しています。

この保全活動にも従業員がかかわり、人と自然の関係を築くと共に、人と人、従業員同志の絆や結び付きも生まれ、この活動を通じた交流が広がっています。

生物多様性保全の取組のひとつとして、ホタル水路を施工する。水路の完成を100名を超える従業員とその家族で祝い、将来来て欲しいと思う生きものを石に描くロックペイントを行い、水路沿いに並べる。



審査委員からの講評

各部門の若手社員で構成する桜プロジェクトという組織を作り、毎月環境に関するイベントを実施している。マンネリに陥りやすい環境教育において新しい企画を継続的に生み出す良い手法であり、若手社員への教育にもなっている。

環境への取り組みスローガンが「ひとりの 100 歩より 100 人の 1 歩」であり、全員参加・全部門参加を明確にした点が素晴らしい。併せて、全社員に向けた環境意識アンケートを継続的に実施しており、教育を実施した結果を測定している。

データ活用として点数の低い項目は、意識を変えるイベントを実施している。生物多様性では事業所内の滋賀の森を利用して虫を育成し、教育の場として活用している。社内ニュースレターは 2009 年から継続的に発行されており、内容に環境への取り組みに対する熱意が感じられる。良い取り組みを数多く実践しており、他社もぜひ参考にさせていただきたい。